

# 多治見市文化財保護センターの

# 変わらぬ役割

「外出自粛が終わったら、遊びに行きたい」「でもコロナ禍だし、遠出は控えなきゃ」と悩んでいる読者の皆さん、多治見に息づく歴史と文化を楽しむお出かけはいかがでしょうか。

多治見市文化財保護センターでは、6月18日まで

企画展「信長朱印状と陶祖の窯」を開催中。

市有形文化財「信長朱印状」と

「由来状」を目にする貴重な機会です。

今号はこの企画展をはじめ、文化財保護センターのさまざまな活動をご紹介します。



文化財のプロに聞く！  
お気に入りの文化財は？



埋蔵文化財  
発掘調査室 室長  
各務嘉洋さん  
((公財)多治見市文化  
振興事業団)



多治見市文化財  
保護センター 学芸員  
岩井美和さん  
(多治見市教育委員会)

陶磁器の販売に携わった家に伝わる  
3821件の文書群、西浦家文書です

平安時代につくられた緑釉陶器専用窯。  
県内で見つかったのは多治見市のみです

## 指定文化財の数は100以上 歴史と文化が薫るまち多治見

「文化財」と聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょう。絵画に彫刻、工芸品、神社や仏閣、遺跡をイメージする人もいるかもしれませんが、文化庁のウェブサイトによると、文化財とは、「我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産」のこと。伝統芸能や祭礼、伝統

技術といった形のないものも、文化財に含まれます。

国や都道府県、市町村は文化財の中で特に重要なものを、指定文化財として保護しています。多治見市においては、国宝の永保寺開山堂と観音堂をはじめ、100以上の指定文化財があります。

多種多様で膨大な市内の文化財の保護を担っているのが、旭ヶ丘にある文化財保護センターです。はるか平安時代から焼き物文化が栄えてき

たまちらしく、古窯跡といった埋蔵文化財の発掘調査が活動の一つです。文化財保護センター内にある埋蔵文化財発掘調査室の各務嘉洋さんによ

ると、多治見市の古窯跡は、県内のほかの市町村と比べ数が多いのだそう。「たとえば遺跡は市内に約850あり、そのうちの8〜9割が古窯跡です」と話します。

埋蔵文化財は一度掘り起こしてしまつと元に戻せないため、そのまま地中で保存するのが本来の望ましい

形です。とはいえ、工事等の理由でやむを得ず現状保存できない場合もあります。そこで行われるのが発掘調査で、記録という形で後世に文化財を残します。

発掘調査は基本的に人力による掘削作業。国内の観測史上最高気温を記録したことがある多治見市において、夏場の作業は特に過酷です。発掘を終えた後も、成果をまとめるという重要な役割が待ち受けています。

「遺物は基本的に廃棄物なので、割れているものが多いんです。そのため可能な限り復元してから、遺物の特徴を図化します。古墳の石室が

## 貴重な市有形文化財の朱印状 原本の公開は6年ぶり2回目

見つかった時は、現地で石積みを一週間ひたすら手書きしました」と各務さん。地道な作業に苦勞を感じつつも、「新しい発見をすることが何よりうれしい」と笑みを見せます。

文化財保護センターでは、発掘出土品や収集した資料、遺跡、指定文化財などを活用した普及啓発事業にも力を入れています。事業の一つが企画展の企画で、現在は「信長朱印状と陶祖の窯」を開催中です。

「目玉である市有形文化財の信長朱印状の原本は、これまでほとんど

展示されていません。この機会にぜひ目にしていただきたいです」と魅力を教えてくださいました。企画展を計画した岩井美和さん。そもそも朱印状とは朱印を押しした

武家の公文書。市有形文化財の朱印状は瀬戸の陶工、加藤市左衛門が天正2(1574)年に織田信長から与えられたもので、生産の保護と移動の禁止が記載されています。のちに朱印状を受け継いだ市左衛門の子孫、半右衛門景増は多治見村(現在の多治見市役所本庁舎付近)に移動して窯を開き、多治見の陶祖となりました。

今回の企画展では、信長の朱印状の目的を見直すとともに、数多く残る由緒書を系統立てて分析し、朱印状が移動した経緯を探っています。「由緒書は簡単に言うと、『俺の先祖はすごいんだぞ!』とアピールするためのもの。由緒書を見ると、由緒の根拠として、信長の朱印状がいか

## 昔の暮らしを道具から学ぶ 民俗資料を無料で貸し出し

学校現場でも収蔵品を活用してもらうために、テーマごとに「学校用貸出セット」を用意しています。「炊事・食事セット」「商業・計量セット」など、全11種類を無料で貸し出して、センター職員による出張授業も可能。岩井さんは、「収蔵品を保管している分室に展示室があります。このスペースで、学校用貸出セットを使った体験もできるようにしていきたい」と展望を語ります。

実際に分室を見学させてもらいました。なかなか見る機会のないバックヤードには、身長ほど高く積み重ねたケースがずらり。「すごい!」と思わず声が漏れてしまう、圧巻の光景がありました。「どうぞ手に取ってみてください」。岩井さんがそう言ってケースの中から取り出したのは、灰色の陶器の破片。「灰釉陶器といって、平安時代



学校用貸出セットの中で人気の「炊事・食事セット」。文化財保護センターでは、こうした民俗資料の収集もしています。「昭和30年代くらいまでに使っていた生活用具で、思い当たるものがあればご連絡ください」と岩井さんは呼びかけます

のものなんですよ」という言葉に、数百年前の人の営みの証が、時を越えていま手の中にあるという不思議な感動を味わいました。過去から受け継がれてきた財産を私たちが受け取っているように、いままもしくはこれからつくられたものがいづれこのまちの宝となっていく。文化財を守り続けるということ、ひいては地域の魅力をつくること、ひいては多治見の未来を創造することにもつながっていくのです。



分室には数えきれないほど多くの貴重な収蔵品が眠っています。ケースごとに記号が書かれ、必要な時に探しやすいようになっています

**入場無料** ..... information .....

多治見市制80周年記念 企画展  
**信長朱印状と陶祖の窯**

【期間】6月18日(金)まで  
担当学芸員による展示解説が聞ける!  
**特別開館・展示解説**

【日時】6月12日(土) 13:00~14:00 【定員】15人  
※電話での事前申し込みが必要。定員になり次第受付終了。  
【予約開始】6月1日(火) 8:30~



入口すぐ左手にある展示スペース。市有形文化財の「信長朱印状」原本の展示は、6月7日~18日までの期間限定なのでお見逃しなく

**多治見市文化財保護センター**

☎ 0572-25-8633  
住所 多治見市旭ヶ丘10-6-26  
開館時間 9:00~17:00 (最終入館16:30)  
休館日 土、日、祝日

ウェブサイトはこちら



**新型コロナウイルス 感染拡大防止のためお願い**

- 来館者はマスクの着用、手指の消毒、入館者カードの記入にご協力をお願いします。
- 熱がある方、体調不良の方は来館をご遠慮ください。
- 館内では、お互いに2m程度の間隔を保ってください。
- 来館者が多数の場合、入館をお待ちいただくことがあります。
- 5人以上での来館を希望される場合は、事前にご相談ください。

※新型コロナウイルスの感染拡大状況により、イベント等の中止および変更となる場合があります。ご了承ください。

## さまざまな保護のしごと

文化財保護センターでは、文化財の所有者や市民と共に文化財の保護を進めています



ツイッターと  
インスタグラムで  
情報発信中!



ケガ等で動けなくなった市内の  
カモシカ(国特別天然記念物)の対応



市天然記念物  
「大藪のシダレザクラ」の樹勢回復



文化財の点検



埋蔵文化財の発掘調査



国宝永保寺開山堂の葺き替え